

回15都道府県) 30件(19件)と大きく増加している状況が目立った。また、日赤病院など公的病院が8都道府県(8都道府県) 8件(8件)と変わらず、社会保険病院はゼロ(1都道府県1件)、その他が15都道府県(16都道府県) 26件(20件)となった。誘致事例がある64件のうち、病院による公募などの情報は確認していないものの、都道府県薬剤師会が敷地内薬局誘致に関する情報を入手している事例は15件だった。

これに対し、国立大学附属病院長会議は10月5日、敷地内薬局の設置状況を調査した結果を公表した。4国立大学病院で設置済み、設置準備中と検討中を含めると16大学に上ることを明らかにし、国立大学病院の約3分の1の敷地内に薬局が設置される可能性があることが分かった。

敷地内薬局の設置は、政府の規制改革会議による答申を受けて、薬局の経営の独立性確保を前提として、2016年10月から解禁された。同会議が各大学における設置状況を調査したところ、千葉大学、新潟大学、島根大学、滋賀医科大学の4大学病院で敷地内薬局が設置されていることが分かった。

同会議の山本修一常置委員長(千葉大学病院長)は、日本薬剤師会などの反対論に対し、「敷地内薬局は患者さんにとって利便性が圧倒的に高い」と強調。「政府が認めた規制緩和に沿って設置しているのであって、法律に触れることはやっていない。なぜ怒られるのか」と反論した。薬剤師会も反対しているものの既に解禁されており、反対運動は難しさを増すことが予想される。

## 薬局の疑義照会が過去最多 薬剤師の安全意識向上示す

17年ヒヤリ・ハット集計

日本医療機能評価機構がまとめた2017年の薬局ヒヤリ・ハット事例の集計結果から、昨年の薬局におけるヒヤリ・ハット事例の報告件数は6084件で、そのうち医療機関で発生した処方箋の誤りを薬局で発見した疑義照会関連の事例が前年から約900件増の2234件と過去最多となったことが分かった。ヒヤリ・ハット事例全体に占める割合も36.7%と前年から9.2%の大幅な高まりを見せ、初めて3割を超えた。薬局薬剤師の安全意識の高まりにより、患者への重大な健康被害を防げている実態が鮮明になった格好で、薬剤師の活動を後押しする勇気づけられるデータといえよう。

17年に報告されたヒヤリ・ハット事例を見ると、調剤関連が前年と比べて262件増の3823件(62.8%)で最多となった。疑義照会関連は2234件(36.7%)で、前年より875件増加。09年の調査開始以来初めて3割を超えた。件数も過去最多となり、薬剤師が水際で副作用を防ぐ事例が急増していることが分かった。

18年度調剤報酬改定では、施設基準として医療安全に関する取り組みの実績を求める「地

域支援体制加算」が新設されており、こうした制度改正が今後ヒヤリ・ハット事例のさらなる報告増につながる可能性もある。

疑義照会に関する項目では、仮に変更前の処方の通りに服用した場合、患者に健康被害があったと推測される事例が1508件(67.5%)、患者に健康被害が生じなかったが医師の意図した薬効が得られなかったと推測される事例が726件(32.5%)だった。変更内容については、薬剤変更が671件、薬剤削除が595件、分量変更が526件の順で、前年から分量を変更した事例の増加傾向が続いている。

一般名処方に関するヒヤリ・ハット事例を分析したところでは、昨年報告された6084件のうち723件と、前年より300件以上増加した。全体に占める割合は11.9%で、初めて1割を上回った。調剤に関する事例は539件で前年より232件増加し、疑義照会に関する事例は184件で78件増加した。

一般名処方に関するヒヤリ・ハット事例は、16年から増加率が高まっており、後発品の使用促進策が加速する中でヒヤリ・ハット事例も増加していることがうかがえた。

## 世界と日本をデータで比較



メディセレスクール 社長

児島 恵美子

こんにちは。メディセレのしゃっちゃん、児島恵美子です。最近「海外で仕事をしたい」というご相談を頂き、カナダで医療通訳としての旅立ちをお手伝いさせて頂きました。カンボジアでの医療支援も2008年からさせて頂いております。そこで今回のコラムでは世界に目を向け、日本と海外の違いを比べてみたいと思います。

まずは年収です。世界各国の平均年収を95年、05年、15年の10年刻みで比べてみました。アメリカは460万円、546万円、658万円、フランスは226万円、533万円、568万円、ドイツは251万円、522万円、587万円となっており、先進国はしっかり伸びて

いることがわかります。このほかポーランドは53万円、137万円、312万円、お隣の韓国も77万円、219万円、385万円と急速な伸びを示しています。それに対し日本は457万円、439万円、415万円。他国とは違い、なんと平均年収は下がっているではないですか！

次に世界183カ国の中央年齢を見てみましょう。日本は45.9才で世界1位。2位はドイツで45.5才。3位はイタリアで44.3才です。このほか韓国は39.4才で28位。アメリカは37.4才で40位。続いてベトナムは29.8才、カンボジアは24.4才、フィリピンは23才、ネパールは22.4才です。最下位の183位はニジェールで15才となっています。

改めて比較するとアジア各国と比べ

た日本の高齢化率はすごいことがわかります。もちろん、その社会を支えるために医療は不可欠です。薬剤師の活躍の場はこれからも増えていきます。ただ、このデータからも分かるように、誰もどこの国も経験したことのない超高齢化社会ですから前例はありません。受け身ではなく、ニーズを自ら開拓していかなければいけません。

不安の一番の解決策は行動です。人間は感謝されることに喜びを感じますが、感謝されなくとも人に何かを与えることで、自分も幸せになります。薬剤師は医療の知識を人に与えることができますので、知識という武器を持って、共にこの時代で活躍していきましょう。そのためには勉強が欠かせませんので、頑張りましょう。

国試予備校の現場から

# やさしい臨床医学テキスト 第4版

【編集代表】星 恵子(聖マリアンナ医科大学客員教授)



“難しいことをやさしく解説”をコンセプトに、様々な疾患の「病気の成り立ち(概念)」から「患者の訴え(症状)」「病状・所見」「臨床監査」「治療」までの一貫した知識を、医療の第一線で活躍する医師を中心にわかりやすくまとめたテキスト。

★Point

患者に安全・適切な薬物療法を提供するために重要とされる「臨床推論」に必要な疾患の基礎知識が身につく

治療法の解説では「薬物療法」に加え、「食事療法」や「非薬物療法」などについても記載

各領域の主要な疾患に加え、実際の医療現場で大事な周辺疾患についても多数収録

詳細はコチラ



B5判 / 556頁 / 定価 4,600円 + 税

◆薬剤師、薬学生、MRなど疾患の基礎知識を身につけたい方におすすめの一冊です。◆薬学部・薬科大学で教科書として多数採用されています。

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ(<http://yakuji-shop.jp/>)または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。